

史跡探訪の碑を尋ねて④ 松山藩八田部教諭所



備中松山藩の山田方谷は、藩内の教育革新を目指し、八田部村（現総社市総社ほか）に教諭所を設置して藩士や庶民の子弟を教育しました。

総社商店街の歴史を巡る

教諭所は、安政2年（1855）に総社宮境内に新築されました。就学に年限はなく、月謝は不要。毎年一度、成績優秀の人には袴の着用を許し、書籍などが与えられました。

所は、明治4年に廃止されましたが、宮本町の宝満寺を本校とし、井手の極楽寺を分校とした啓蒙所が設けられ、明治6年には「成章校」と名を改め、村立の小学校になりました。これが、今の総社小学校の前身です。



その後、教諭

ちよつと立ち話



松永 誠之さん (総社)

れとろ〜どでは、まちかど郷土館もライトアップされ、まさに「レトロ」があふ建物そのものでしたね。古い写真の前では、知り合いの姿を見つけ、地域のお年寄りが多いの遠く懐かしい思い出に花を咲かせていました。

小児期からの生活習慣病予防

山本 裕子 医師
(吉備医師会から)

従来、成人の病気だと思われていた高脂血症、高血圧、糖尿病などの生活習慣病が、最近では小児期にもみられるようになりました。

生活習慣病の危険因子となる動脈硬化は、すでに小児期から始まっています。また、生活習慣病の予備軍である小児肥満は、学童の約1割近くに達するというのが現状です。そのような小児生活習慣病が増加した背景には、次のようなライフスタイルの変化があります。

- 食生活の変化
食事の欧米化やファーストフード、外食の増加による摂取カロリーが増大。特に、脂肪や炭水化物の摂り過ぎ
- 運動量の減少
テレビやビデオ、テレビゲームで室内で過ごす時間が増えたことによる外遊びや運動の減少
- 生活リズムの乱れ
夜型の生活習慣の小児が増え、そのために夜食を取って朝食を

健康アドバイス

- 抜くなど食生活が乱れたり、睡眠不足になったりする小児の増加
- このような悪い生活習慣は乳幼児期に身に付いてしまったため、幼少の時期から良い生活習慣を身に付けることが大切です。保護者の皆さん、具体的には、次のようなことに気を付けましょう。
- ① 食事は決まった時間にし、朝食も含めて1日3食をほぼ均等に食べましょう
- ② おやつは決まった時間に与え、量は控えめにしましょう。甘いものは控えめに!
- ③ 脂肪分を摂り過ぎないように、和食メニューを増やしましょう
- ④ 硬い食品も与え、一口20回以上よく噛んでゆっくり食べるようにしましょう
- ⑤ 外遊びの時間を積極的につくりましょう
- ⑥ 家族みんなで運動しましょう
- ⑦ 早寝、早起きの習慣をつくりましょう

教育知り隊

市青少年育成センターは、所長と5人の補導委員、市内各地区の補導員(17人)で構成されています。また、こども課をはじめ、小・中学校、高校、総社警察署なども連携を取りながら、「安心・安全」の「心の補導活動」を実施しています。

子どもたちとひざを交えて

～青少年育成センター(2)～

- ① 補導活動では、青色回転灯を装着した車で、市内全域の公園、神社、駅、コンビニ、商店などを巡回。喫煙、不良交友、不健全行為などを行っている子どもにも声掛け活動をしています。
- ② 相談活動では、児童・生徒はもちろん、その保護者や祖父母などからの相談(受付電話☎4713「日・月曜日・祭日を除く」)に応じています。内容は、進路の悩み、交友関係、性の悩み、人権に関わることなど多岐にわたります。また、継続した相談も行い、進学・通学の励ましもしています。
- ③ 環境浄化活動では、有害図書の販売店を査察したり、撤去の依頼を

したりしています。また、たまり場の調査もし、店の人にはその防止への協力と呼びかけています。

④ 啓発活動では、小・中学生に「悩んだときには同センターに相談を」などと書いた相談カードを配布。また、総社警察署と協力して、薬物の乱用やいじめ、万引きなどの防止を小・中学生に呼び掛ける研修会も開催しています。

何よりうれしいことは、悩んでいる子が「今、がんばつとんよ、ちゃんと卒業するから」、「がんばって仕事を続けているよ」などと話してくれることです。どの子の瞳も輝き、すこやかな人生が送れるよう、手助けができたらと、今日も街に出掛けていきます。

皆さんの協力や関係機関などの努力で、子どもたちの問題行動は減っています。しかし、最近では市内で不審者が多く出る現状もみられます。みんなで見守り、「おはよう、こんにちは、おかえり」の声掛けで、安心・安全なまち総社にしましょう。

【生涯学習課】

財政は大きく好転 ～平成18年度決算見込みから～

昨年は、夕張市の報道もあり、市民の皆様も議員各位からも、市の財政へ強い関心が寄せられました。夕張市の場合、「一時借入金」が29.2億円もありましたが、本市の「一時借入金」はゼロです。にもかかわらず、不安を示される方がおられました。

昨年3月議会では、市の基金貯金(が底をつき、財政再建団体になるのではとの心配もいただいております。

平成18年度当初予算(一般会計)としては、基金を21億7500万円取り崩すことになっており、心配されるのも無理からんとところであります。しかし、結果としては2億4000万円の取り崩しで済んでおり、主要5基金の残高も昨年の予測では平成18年度末で16億1000万円でしたが、それを大きく上回り42億円程度となる見込みであります。これは職員各位の努力はもとよりですが、議員各位をはじめ、市民の皆様のご協力の賜物であります。

市長室から

その要因としては、職員数削減による人件費の抑制などの行革効果、予想以上の交付税の確保、紀文食品の操業などに見られる景気の回復による増収の増加、サンロード吉備路の黒字などですが、今後も引き続き、手堅く運営して健全財政を貫きます。

市の借金総額(特別会計を含む一般会計)も平成16年度の560億円をピークに年々減少しており、平成19年度末には528億円の見込みとなります。その内の約40%は、返済の折に交付税で対応される有利な市債です。ちなみに、平成19年度で申しますと、一般会計で51億6000万円返済しますが、新規借入見込は19億1000万円であり、借金残高は確実に減少して行きますので「安心ください」。

いよいよ夏本番ですが、ご自愛のうえ、クールビズによる省エネのご協力もお願い申し上げます。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

総社市長 竹内 洋二